

教宣 せぶん

職場の風景

職場での私の席は9月末以前のRAのシマに変わらずにあります。RA全員が転進したことにより、このシマに一人で座っています。このシマは日勤社時代からの、私たちに馴染み深いグレーのスチール製の机群で構成されていて、広大なスペースと使い古された一時代前の机たちが、近代的なオフィス空間の中で異彩を放っています。

先日、仕事から帰って職場に着くと、他の席には全席配布されているのに、私の席だけ配布されていない書物があることに気がつきました。健保組合が発行する「けんぼファミリー」です。いままでは滞りなく配られていたのに「おかしいな?」と思ったのですが、後になってある推測が成り立ちました。10月以降、RAとして一人残る私の在籍理由を「組合の違い」とでも聞いた、「労働」組合と「健保」組合の区別がつかないスタッフさんが、わざわざ私の席にだけ「けんぼファミリー」を配布しなかったのではないかというものです。もしかしたら私の考え過ぎで、ただの配り忘れなのかもしれません。こういう状況下に身を置いていると、妙に感受性が鋭くなってしまふ、今日この頃です。

これと逆のことは以前からチョクチョクありました。労組組合員への配布物が自席に置かれていたり、労組新役員の挨拶メールが舞い込んできたり、「わかっていないな」と思うことがありましたが、もし配り手の「組合」の勘違いで「けんぼファミリー」がわざわざ私の席にだけ配られなかったとしたら、怒りを乗り越えて笑ってしまいます。

同じようなことはこれからも起こるかもしれません。他の者と一人だけ違う動きをしていると、思い込みも含めて、「些細な」事象にぶつかるかもしれません。事の真偽は別にして、それらのほとんどは、実行者の大意がない、無意識なふる舞いです。私たちへの攻撃はストレートに放たれる「パンチ」だけではありません。こういう無意識に繰り出される「ジャブ」とも上手に付き合いながら、巧みにかわしながら、このたたかいをすすめていかなければならないと思いますし、したたかにこの企業の中で生き抜いていかなければなりません。

私は穏やかな口調で課所長に申し入れました。「そんなことはないと思いますが、もしそうだとしたら注意してもらえませんか?」。課所長も笑って頷きました。